東みよし町「旧三加茂町」の板碑

考古班（徳島考古学研究グループ）

岡山真知子[*1]　小林　勝美[*2]　三宅　良明[*3]　福田　宰大[*4]　西本　沙織[*3]

要旨：東みよし町「旧三加茂町」には，特徴的な板碑が造立されている。今回の調査で，６基の板碑の存在と２基の紀年銘板碑を確認できた。「旧三加茂町」の板碑の全体的な特徴は，不定形な板碑が多いこと，阿弥陀三尊種子板碑が多いことなどが指摘できる。個別の特徴として，２ｍを超える大型板碑が１基，宝瓶五茎蓮の線刻板碑が１基，線刻地蔵画像板碑が１基存在することが挙げられる。阿波型板碑の西限にもあたり，板碑の流通経路を考える上でも重要な地域である。旧三好郡では，「旧三加茂町」のほかには対岸の三好市「旧三野町」で２基，「旧池田町」で１基確認できるだけである。

キーワード：阿波型板碑，紀年銘板碑，阿弥陀三尊種子板碑，宝瓶五茎蓮線刻，地蔵画像板碑

１．はじめに

板碑とは，石製の卒塔婆のことで，中世に造立され，分布の中心地の一つに阿波国があるという独特の考古遺物である。三加茂町の板碑研究は，昭和41（1969）年の田中猪之助氏が中庄の「貞治二（1363）年銘」の板碑を発見したことに始まる。そこで，先祖が加茂村である板碑研究家の田岡香逸氏に旧三加茂町内の板碑調査を依頼し,実施したことによって,三加茂町内の板碑の全容が解明された。

今回の調査は，田岡氏が書かれた「板碑」を参考にして，現地調査を実施したものである。板碑６基を確認した。今回確認できた板碑を地図上に記したのが図１である。

２．東みよし町三加茂地区における板碑の調査

今回の調査は確認した６基の板碑の実測調査・拓本・写真撮影を行った。

東みよし町三加茂地区で確認した６基の板碑を分布でみると，低地部に３基，標高800mという高地に３基分布していることが分かる。

今回調査した板碑について述べる。

１）中庄の板碑（町指定文化財）（図２）

中庄の東端字佃にあり，集落の中を東西に貫通する道路と南北に通じる道が交差するところから，南へ100m入った交差点の北側に，下部を地中深く埋められた状態で南面して立っている。現在は，板碑から100m南に新しい道路が貫通している。緑色片岩製で，規模が極めて大きい。田岡氏が調査した時点で，「高さ184センチでなお埋没部が50～60センチあるという」[(1)]。これからすると，全長は240cm余りということになる。現在は，倒壊の危険からさらに約30cm埋めて，157cmである。幅は76cm，厚さ18cmを測る。

板碑の形は，先端が尖らず，平坦である。上半に，キリーク・サ・サクの阿弥陀三尊の種子を配する。下半に２行にわたって，「貞治二癸卯八十二日長賢」の11文字を陰刻している。現在は，この下半部の文字は埋められており，確認できなかった。貞治二年

＊１　徳島文理高等学校　＊２　阿波学会会長　＊３　徳島市教育委員会社会教育課　＊４　徳島市立福島小学校

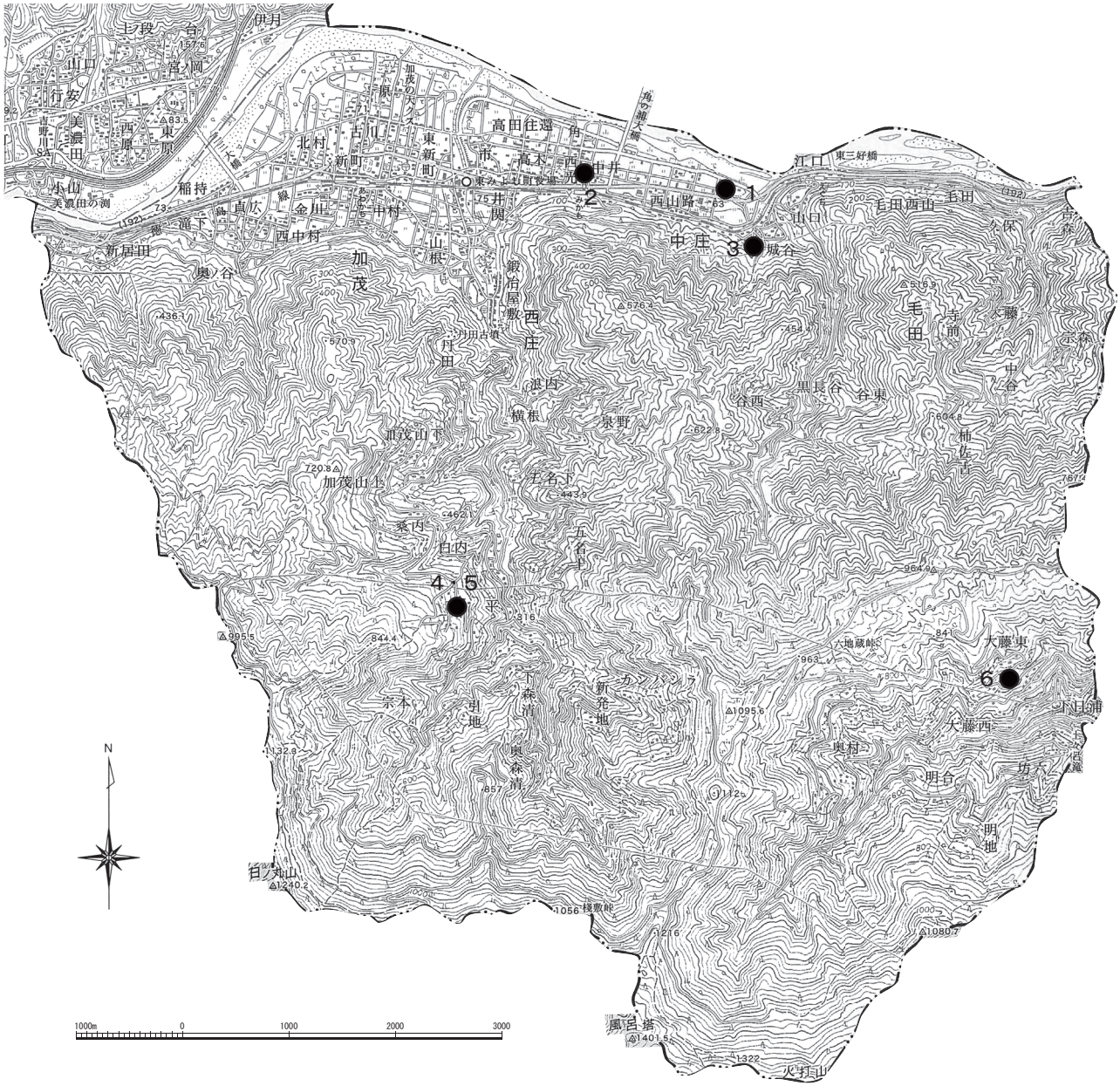

図１　東みよし町三加茂地区の板碑の分布（番号は表１に同じ）

表１　東みよし町三加茂地区の板碑（長さ・幅・厚さの単位は cm）

No.	所在地	長さ	幅	厚さ	形	二線	枠線	標識	銘文	特色	文献
1	中庄字佃	157.0 (184＋α)	76.0	18.0	不定	無	無	阿弥陀三尊種子	貞治二癸卯八十二日　長賢	1363年	田岡1973
2	中庄字中井	37.3	19.8	2.4	山形	有	有	阿弥陀三尊種子			田岡1973
3	城谷　林下寺	87.0	46.0	7.0	不定	有	無	五大種子			田岡1973
4	白内	74.0	40.0	7.4	不定	無	有	線刻地蔵		蓮華座・光背	田岡1973
5	白内	65.0	20.0	2.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		宝瓶五茎蓮線刻・薬研彫	田岡1973
6	大藤西	120.5	19.5	8.0	不定	有	無	阿弥陀三尊種子	康応己巳年廿七人中	1389年，阿弥陀三尊種子が縦一列	三加茂町1973

A

B

図２　中庄の板碑実測図（A：１：８，B：１：16）

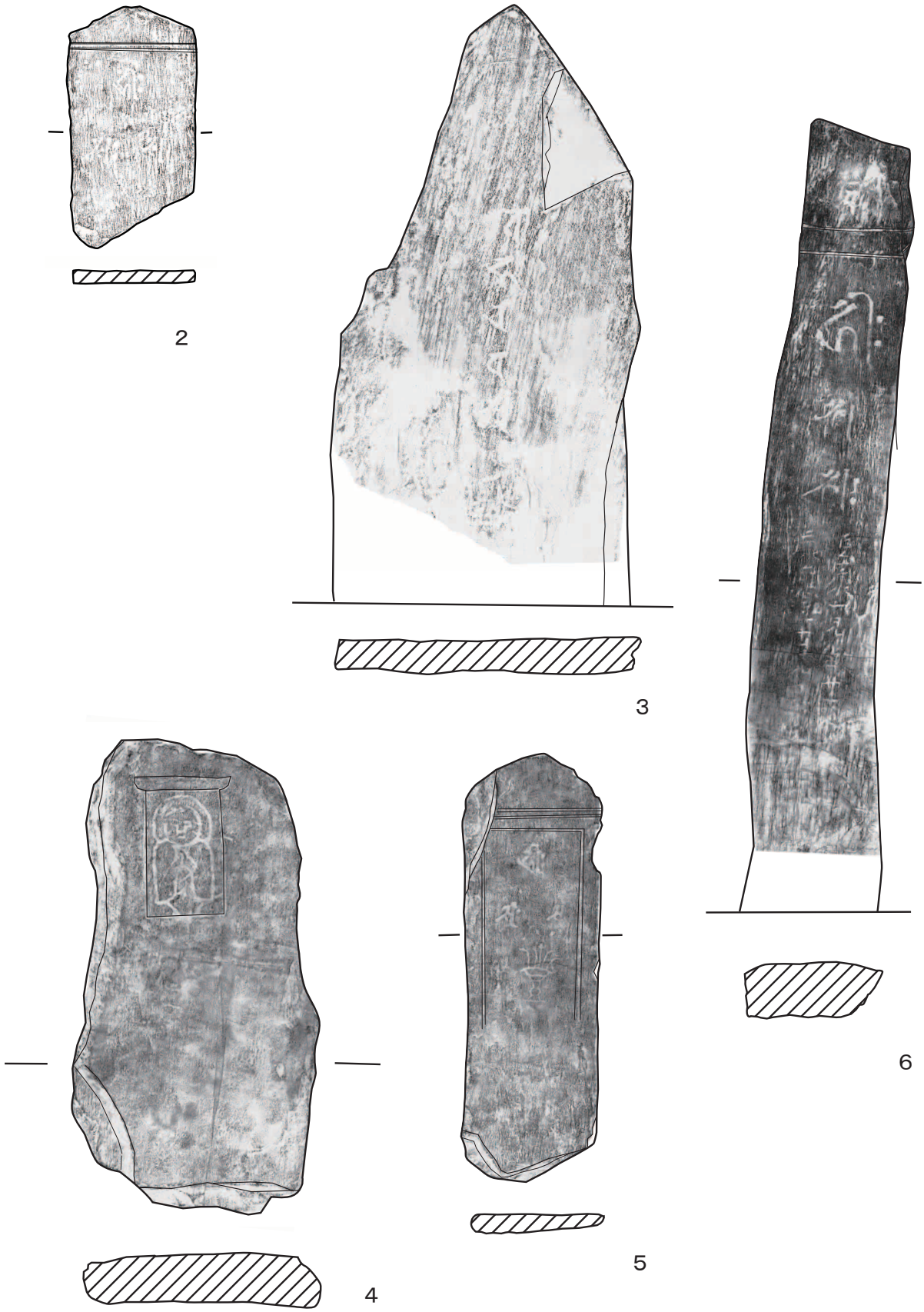

図３　「旧三加茂町」の板碑実測図（１：８，番号は表１に同じ）

は1363年であり，南北朝期の板碑で，８月12日に長賢が建立したことがわかる。

三加茂町歴民俗資料館にこの当時の拓本が保存されており，これには，この文字が刻まれていることがわかる。図２－Bがこの拓本である。

また，この板碑は畑の中に埋まっていたのを田中猪之助氏が発掘した[2]とも述べられている。

２）中庄の田中猪之助氏蔵板碑（図３－２）

田中家の庭先に伝蔵されていた阿弥陀三尊種子板碑である。長さ37.3cm・幅19.8cm・厚さ2.4cmを測る。典型的な阿波型板碑といえる。

３）城谷　林下寺の板碑（図３－３）

田岡1973によれば，南面している本堂の前庭の植え込みの中に立っている阿弥陀三尊種子板碑[3]とある。本堂の建て替え等もあり，現状は本堂の裏に立っている。調査の結果，長さ87cm・幅46cm・厚さ5.0～7.0cmの五大種子板碑であることがわかった。田岡1973に書かれている内容とあまりにも食い違うので，別の板碑の可能性もあることは付記しておきたい。

４）白内観音堂の線刻地蔵板碑（図３－４）

標高530mという高所にある白内集会所の隣にある白内観音堂の厨子の中に２基の板碑が安置されていた。そのうちの１基である。高さ74.0cm・幅40.0cm・厚さ7.4cmを測る。不定形で，二線・枠線もない。上方の左半部に高さ18.8cm・幅11.7cmの矩形の輪郭に，上部はさらに長方形を示し，田岡の言葉を借りれば，「鳥居」の表現となっている[4]。地蔵像が線刻されている。蓮華座の上に光背を背負った合掌する高さ18.4cm地蔵立像が線刻されている。田岡1973では簡略化した室町後期のものとされている[4]。

５）白内観音堂の阿弥陀三尊種子板碑（図３－５）

前述の板碑と同様，白内観音堂内の厨子の中に安置されていた１基である。高さ65.0cm・幅20.0cm・厚さ2.5cmを測る。二線・枠線をもつ外形は典型的な阿波板碑である。薬研彫の阿弥陀三尊種子を配し，その下に花瓶（宝瓶五茎蓮[5]）を線刻している。田岡1973によると，この宝瓶五茎蓮の線刻は珍しく，京都や滋賀に類例が求められるが，この山間の地になぜこうした板碑が造立されたのかが，疑問であるとしている[6]。

６）大藤（おおとう）西の阿弥陀三尊種子板碑（図３－６）

標高620mという高所に位置する大藤西地区の集会所前に立てられている。不定型で，長さ120.5cm・幅19.5cm・厚さ8.0cmを測る阿弥陀三尊種子板碑である。細長い形態で，そのためか，阿弥陀三尊種子を縦１列に並べているのが特色である。その下には，「康応己巳年　廿七人中」の紀年銘をもつ。康応己巳年は，西暦1389年であり，南北朝期末期に27人によって造立されたことがわかる。

この板碑については，『三加茂町史』経塚の項に，「毛田十輪寺の経塚は現存しており，墳上に板碑が３基あったが現在は１基残っている」[7]との記述があり，この板碑が該当する可能性が高い。

３．まとめ

１）板碑の標識

東みよし町の板碑を標識別にグラフにしたのが図４である。これを見ると，阿弥陀三尊種子板碑が２/3くらいを占める一般的な阿波型板碑と三加茂地区もほぼ同率である。

次に，五大種子と地蔵画像が１例ずつであり，名号板碑は見られない状況である。

次に，特徴として，山形に二線・枠線といった定形化した板碑は２基で，形の整わない不整形の板碑が４基と多い点が挙げられる。

２）板碑の造立年代

紀年銘板碑が２基しかないが，最も古いのが中庄の貞治二(1363）年であり，次に，大藤西の康応元年（1389）年である。これらは板碑が最も多く造立される南北朝期である。

３）板碑の大きさ

三加茂地区板碑の大きさの分布を図５に示した。特徴として，大形板碑がみられることが挙げられる。180cmを超える板碑が１基ある。

また，幅と長さの比が阿波型板碑の場合は１：２が標準的であるが，三加茂地区板碑は２基を除いて，ほぼそのラインである。２基は，幅が小さく，細長い形である。それらは，不整形の板碑である。

大型の中庄の板碑は，一回り小さいが，対岸の三野勢力（せいりき）会館北四辻の板碑との共通性が指摘できる。

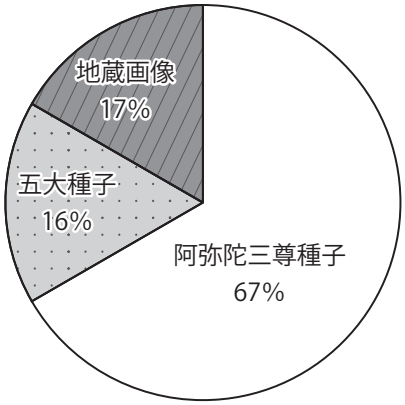

図４　三加茂地区板碑の標識割合

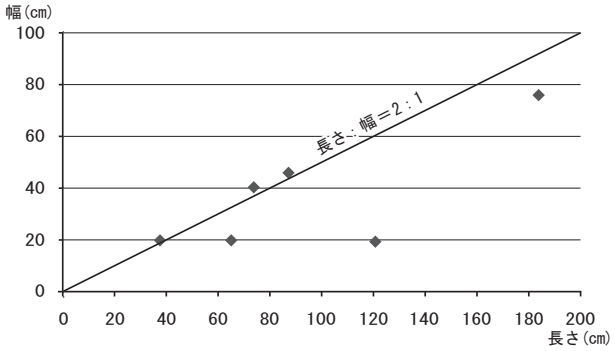

図５　三加茂地区板碑大きさ

４）板碑の造立位置

分布の項でも述べたが，標高60m 前後の低地に位置するのが２基，100m 前後が１基，標高600m 前後に３基がある。大藤の場合は後述もするが，隣接するつるぎ町半田地区の板碑との関連が想定できる。

４．考察

１）三加茂地区板碑の位置

旧三好郡の板碑と隣接するつるぎ町半田地区の分布と併せて考察し，三加茂地区の板碑の伝播について考えてみる。

まず，阿波型板碑は，名西郡石井町に初現する（1270年）。その後，1315年になって神山町，鳴門市，1316年に鴨島町へと広がる。1318年には脇町，1320年に阿波町，国府町でも造立される。

南北朝期には，板碑の造立数の増加に伴って地域的に全県へと広がりをみせる。分布の中心は，鮎喰川流域の神山町・石井町・国府町である。この時期に，この地域にも板碑が造立された。

後期になると，鮎喰川流域と吉野川中・下流域に分布が狭められる。

以上から，この「旧三加茂町」の板碑は，中庄の板碑を初現と考えれば，吉野川市鴨島町から美馬市脇町，穴吹町，吉野川市美郷村で造立される流れで造立されたと考えられる（**図６**）。

次に，大藤西の620m，白内の530m という高所に造立されるのも特徴である。他に類例を求めれば，吉野川市山川町の中禅寺の標高570m，隣のつるぎ町半田の500m 前後，木屋平森遠の600m 前後が挙げられる。600m 前後という高地に造立されたのである。

なお，大藤西の板碑は，隣町ではあるがよく似た標高の猿飼の板碑と同じ造立年である。

２）花瓶をもつ板碑

白内の阿弥陀三尊種子板碑には，単式で五茎の供花をもつ花瓶が描かれている。一般的に花瓶は徳利型が多いが，この板碑の花瓶は上部が平らになっており，かなりデフォルメされている。上坂1983のいうH形に属すると考えられる。また，上坂1983では，武蔵型板碑において花瓶の分類編年を行い，1360年以前，1360～1440年，1440年以降の３期に分類しており，H 形は３期以降に見られるとされ，帯飾りも新しい時期には見られなくなる。

供花の形状も，宗派により異なるが，板碑の場合，一茎～五茎・七茎がある。単式の場合，二茎・三茎が最も多く用いられ，双式の場合，三茎が多く用いられている。

上坂1983では，単式の一茎は14世紀中頃，二茎は14世紀初頭～16世紀初頭，三茎は13世紀中頃～16世紀後半，五茎・七茎は14世紀中頃にみられるとある。また，花葉については，15世紀初頭以降は簡略化される。

阿波型板碑で花瓶をもつ板碑が69例確認できた。うち，紀年銘板碑は19例である。この紀年銘板碑をまとめたのが**表２**であり，これらを中心に考察を加えてみる。

標識別では，阿弥陀三尊種子板碑が７例，地蔵画像板碑５例，阿弥陀画像板碑・名号板碑・五輪塔線刻五大種子板碑が各２例，阿弥陀一尊板碑が１例である。一般的な阿波型板碑の標識と比較すると，地

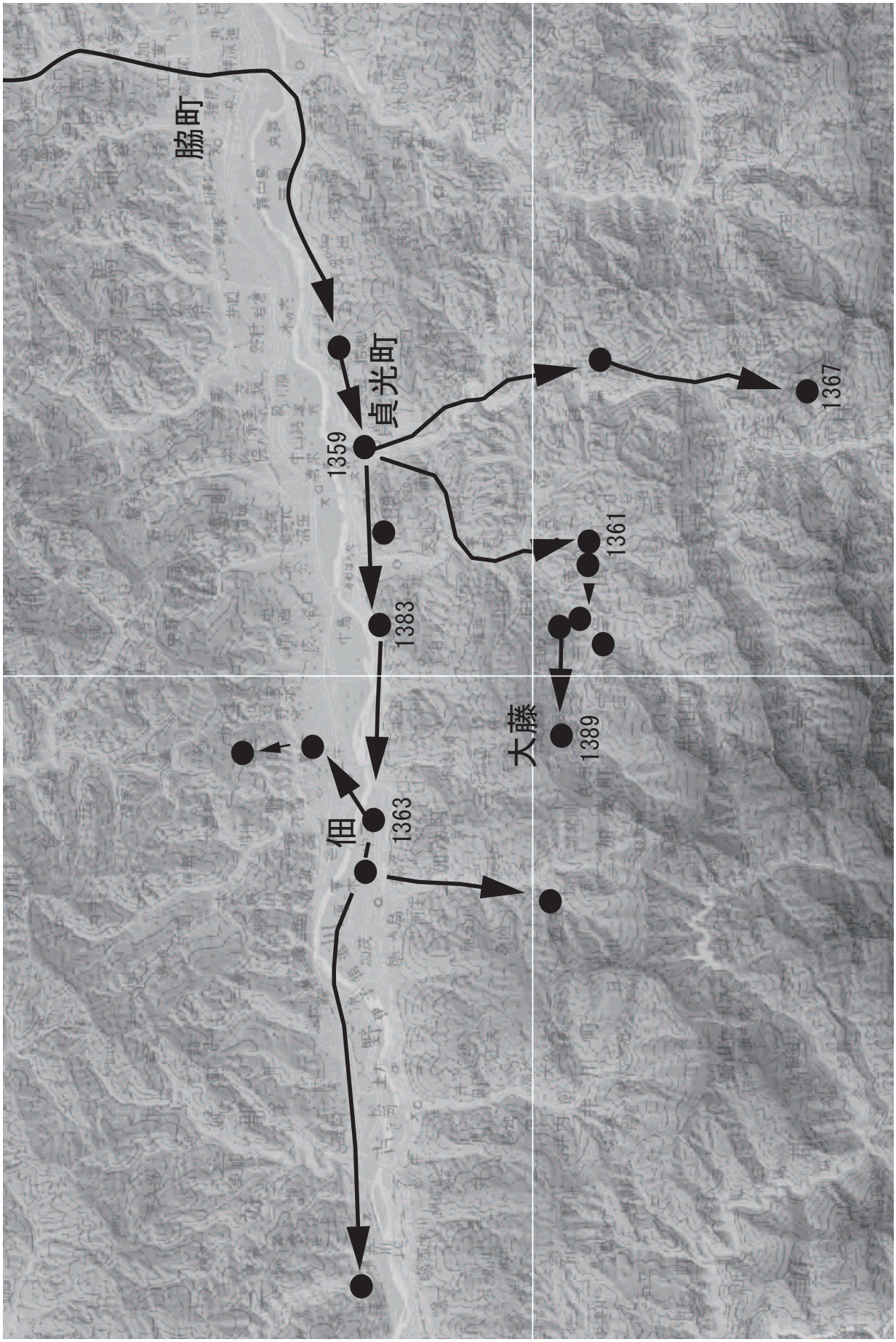

図６　「旧三加茂町」周辺の板碑（数字は西暦年を示す，国土地理院発行20万分の１地形図を基図とする）

表２　花瓶を持つ紀年銘板碑

No.	所　在　地	全長	幅	厚さ	形状	二線	枠線	標識	銘文	西暦	花瓶
1	名東郡佐那河内村仁井田　仁井田神社	113.4	27.0	5.7	山形	有	有	地蔵画像	為逆修善根尼法阿廻向也元徳三年八月廿五日敬白	1331	双式花瓶
2	徳島市入田町金治建治寺	126	35	7	山形	有	有	阿弥陀三尊種子	貞和五年八月時日敬白	1349	花瓶
3	徳島市国府町西高輪吉輪庵跡	110	38	6	山形	有	有	名号	為明阿逆修善根也　貞治七年二月十五日	1368	双式花瓶
4	徳島市国府町日開高屋敷　法光寺	125	55	6.5	山形	有	有	六地蔵	□比丘尼児典逆修　應安八年□二月廿	1375	双式花瓶
5	徳島市国府町芝原	160	67	12	山形	有	有	阿弥陀画像	為右之志者逆修善根也康暦第三大深春□□	1381	花瓶
6	名西郡神山町下分字大久保　森本家墓地	84.0	25.0	4.0		有	有	阿弥陀三尊種子	右志者為沙弥□□□□□□五年	1386	単式花瓶
7	名西郡神山町広野字馬地　地蔵堂	158.0	44.0	5.0		有	有	地蔵画像	□□志者為逆修善根□□□干時明徳元年庚午十月日敬白	1390	花瓶
8	名西郡神山町広野字嫁河内墓地	174.0	46.5	5.5		有	有	地蔵画像線刻	右志者為逆修菩提十二人也　明徳元年□月日敬白	1390	双式花瓶
9	美馬市木屋平村櫟木藤田孝男裏梅津家	74.0	35.0	4.0	弧形	有	有	五輪塔線刻	明徳五年四月二日	1394	単式花瓶
10	板野郡藍住町奥野前川東条家屋敷内墓地	85.0	25.5	4.5	山形	有	有	阿弥陀三尊板碑	応永？	1394	単式花瓶
11	名西郡石井町高原字平島291の１　高橋修氏宅の屋敷墓地	70	28	5		有	有	阿弥陀三尊種子	應永二年□□十一月二十九日	1395	花瓶と花
12	名西郡神山町広野字南養瀬　佐藤竜平宅裏	125.5	36.0	6.0		有	有	阿弥陀画像	右志者□道観禅門之　□応永□□□□□□□	1397	双式花瓶
13	美馬市木屋平村太合桧堂内	78.9	28.5	4.0	山形	有	有	地蔵線刻画像	右志者□□□　応永五年花？	1398	花瓶
14	名西郡神山町神領字南上角白桃　中野家裏	91.0	28.0	3.5		有	有	阿弥陀三尊種子	為祐□成菩提正覚　応永八十一月日敬白	1401	花瓶
15	木屋平村二戸　戸田昭二（秀太郎）	95.0	25.0	4.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子	善阿禅尼建　應永二十二年十月廿一日敬白	1415	花瓶
16	木屋平村二戸　戸田昭二（秀太郎）	96.0	25.0	5.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子	(真) 高信禅門定診 (逆修) ？旅？爲　應永二十二年十月廿一日敬白	1415	花瓶
17	名西郡神山町広野字峯長瀬　阿弥陀堂	78.0	27.5			有	有	阿弥陀一尊種子	□故遊園禅門菩提　応永廿六年七月廿二日　敬白	1419	花瓶
18	名西郡神山町上分字名ヶ平　　杉本宅下	56.0	31.6	1.5		有	有	名号	明応二年三月八日　本願太郎兵	1493	花瓶
19	名西郡神山町上分字名ヶ平　阿弥陀堂	80.0	38.0	3.5		有	複線	五輪塔＋五大	右赤杏藤□十六人供養菩提孝子　明応二年□□□　敬白	1493	花瓶

蔵画像や阿弥陀画像が多いのが特徴的である。画像の下に花瓶を描くのが効果的だと考えられる。また，所在地別では神山町が８例，徳島市国府町３例，美馬市木屋平地区４例，徳島市入田町・石井町・藍住町各１例であり，阿波型板碑の分布の中心地域と重なる。

この花瓶を描く板碑は，1331年に初現し，南北朝期に６基（1397年まで含めると９基），1410年代に２基，1493年に１基である。上坂編年にあてはめると，１期は１基，２期は13基，３期が１基となり，圧倒的に２期が多い。これを，図化したのが，**図７**である。これを見ると，武蔵型板碑と同じく，具象的な花や花瓶の描き方が，次第に抽象化し，簡略化していくのがわかる。

三加茂地区の白内の阿弥陀三尊種子板碑がどの時期に該当するか検討してみる。

この白内の板碑は，五茎で蕾（つぼみ）ではあるが花も表現しているが，抽象化されている。また，花瓶も図案

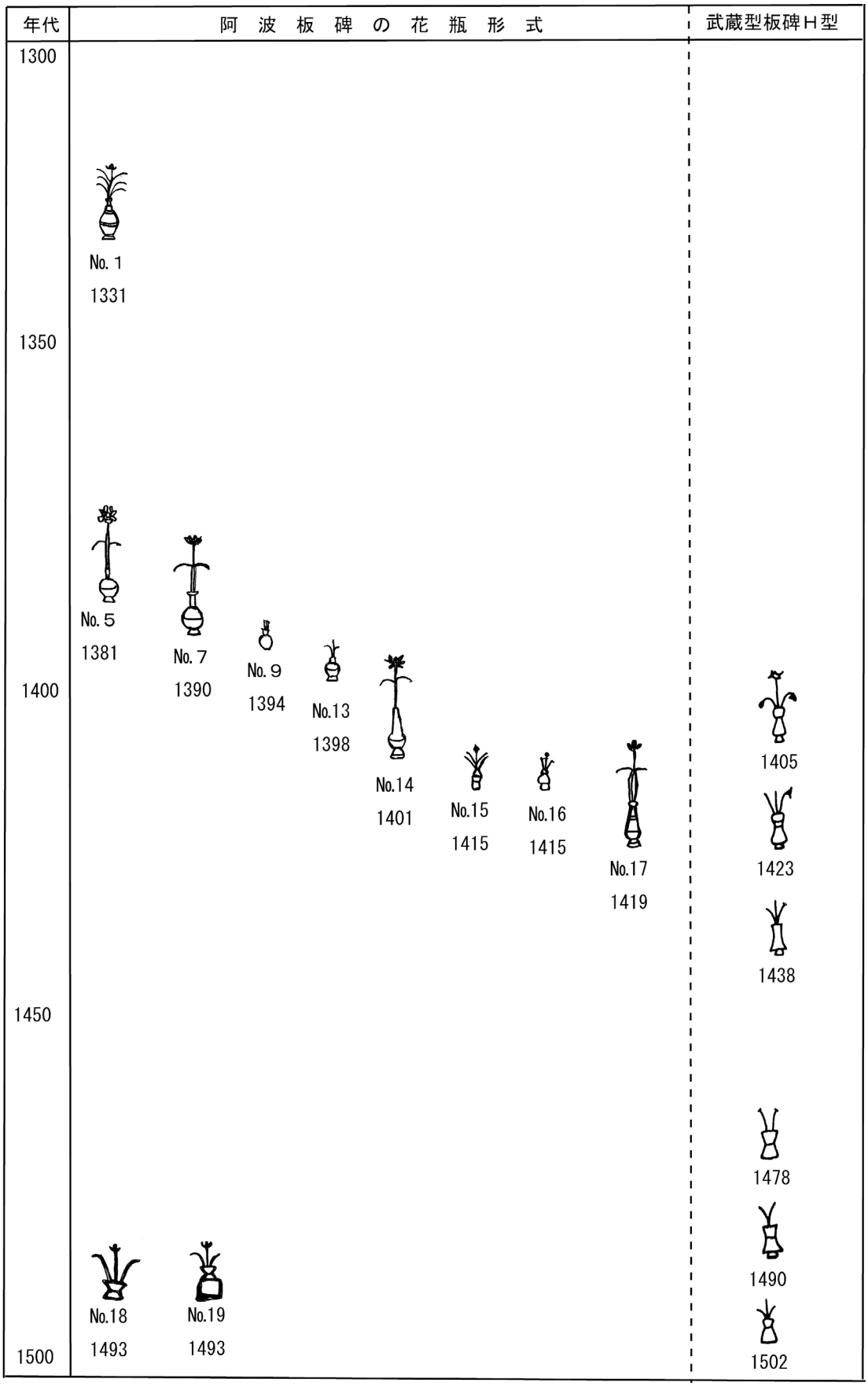

図７　花瓶をもつ板碑編年（上段は表３の板碑番号，下段は西暦年を示す）武蔵型は上板1983より作成

表３　徳島県内の地蔵画像板碑

No.	年	長さ	幅	厚さ	所　在　地	二線	枠線	紀　年　銘	参考文献等
1	1331	113	25	5	名東郡佐那河内村仁井田	有	有	為逆修善根尼法阿廻向也元徳三年八月廿五日敬白	考古班2002
2	1340	106	24	5	名西郡神山町神領字大埜地	有	有	為□□□□小野地□□暦応□年月日敬白	神山町1993・1995
3	1392	64	17	2.8	海部郡日和佐町赤松字栗作青木宅	有	有	明徳三年二月廿三日　妙禅尼也	考古班1997
4	1390	135	45	6	徳島市入田町堀田　地蔵堂	有	有	右志者逆修菩薩□□□□□□如法如□□□□意趣□□□衆　明徳元年八月時正	徳島市1989
5	1390	140	38	7	海部郡海部町大字芝字野江地蔵寺	無	無	右志者為逆修結衆等　奉造立供養各敬白　明徳元年十月　日	郷土班1987
6	1390	158	43	5	名西郡神山町広野字馬地地蔵堂	有	有	□□志者為逆修善根□□□　干時明徳元年庚午十月日敬白	神山町1993・1995
7	1390	174	45	5.5	名西郡神山町広野字嫁河内墓地	有	有	右志者為逆修菩提十二人也　明徳元年□月日敬白	神山町1993・1995
8	1393	100	30	4	那賀郡鷲敷町中山　森家地蔵堂	有	有	明徳四年□□□□□	郷土班1983
9	1404	－	－	－	麻植郡川島町学　御迦藍堂			応永十一年	郷土班1971
10	1559	64	27	4	鳴門市大麻町池谷　東林院本殿内	有	有	□□□逆修也　永禄二年二月九日	鳴門市1976
11	－	103	48	7	名西郡神山町広野五反地通学橋北詰	有	有	なし	神山町1993・1995
12	－	69	35.5	7	名西郡神山町阿川駒坂地蔵堂	有		摩滅	神山町1993・1995
13	－	80	16.7	5	海部郡日和佐町西河内月輪１号板碑	有	有	なし	考古班1997
14		98	15	6	海部郡日和佐町西河内月輪２号板碑	無	無	なし	考古班1997
15	－				海部郡宍喰町			日和佐の月輪例と共通	筆者実見
16	－				鳴門市大麻町池谷　宝憧寺				鈴木1977
17	－	112	42.5	8	板野郡藍住町勝瑞阿弥陀橋	有	有	なし	考古班2006

化された形であり，帯飾りもない。以上から，３期以降ではないかと想定したい。田岡1973では，この板碑の花瓶と京都西向寺の線刻地蔵板碑（1391年在銘）の宝瓶との共通性から，同じ時期を想定し**図８**に２基の板碑の花瓶を掲載したので，比較すると，あまり共通性は感じられない。

３）地蔵画像板碑

地蔵は，末法思想が流行する平安時代末期から盛んに信仰され，死後の冥土にも救いの手をさしのべてくれるということで，民間信仰として広く親しまれてきた。板碑にも地蔵の画像・種子が刻まれ，徳島県内では板碑全体の中で３％程度見られる[8]。紀年銘板碑に限ると，10基知られる（考古班2002）。この他，少し意匠の異なる地蔵画像板碑が県南部などで３基確認されている。これを含めると，15例である。ここで，これらの板碑を表にまとめると，**表３**となる。

表３に示したとおり，地蔵画像板碑では，仁井田

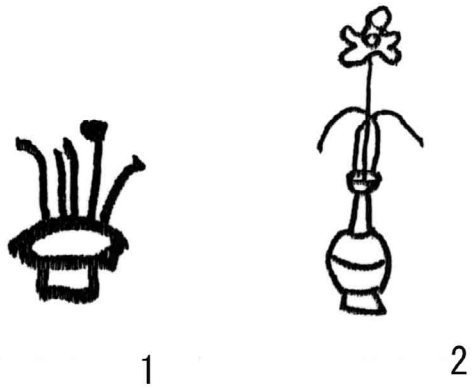

図８　花瓶の比較（１：白内板碑，２：西向寺板碑）

神社地蔵画像板碑が最も古い例である。また,1390～1393年には,入田町から神山町の鮎喰川流域で３基,鷲敷町から海部町の県南部で３基の計６基が造立されたのが注目される。特に，板碑の造立数そのものが少ない県南部で短期間に地蔵画像板碑が造立されたことは意義深い。

図８にも示すとおり，佐那河内村の例のように後光をもつ例はない。最も近い意匠は，５の神山町嫁河内例である。また，日和佐町青木家の例のように観音画像と双式板碑として建立される例（考古班1997）も見られる。基本的には蓮華座に立像で描かれるている。徳島県内で，地蔵画像板碑と確認できるのは，この板碑を加えて17例である。かつて，考古班2002では，紀年銘板碑に限って10例を紹介した。

地蔵画像板碑の初現は，元徳３(1331）年佐那河内村仁井田の地蔵画像板碑である。これは，花瓶にも共通する。明徳年間（1390～93）に５基と集中的にみられる。あとは,応永11(1404)年と永禄２(1559)年である。白内の地蔵画像板碑は，独特の描き方から，県南部や宝憧寺と共通性が高い。残念ながら，これらの板碑には紀年銘がないので，時期比定は難しいが，簡略化した描き方などから，新しい時期を考えたい。

謝辞

東みよし町教育委員会，東みよし町文化財保護委員会，歴史民俗資料館，板碑の所蔵者・管理者の方より多大なご援助をいただいた。記して感謝したい。

注

（１）田岡1973p.198
（２）田岡1973p.199
（３）田岡1973p.197
（４）田岡1973p.196
（５）田岡1973p.196
（６）田岡1973p.196
（７）三加茂町1973p.192
（８）岡山2008p.４

参考文献

石川重平1993:「阿波の板碑」『阿波学会三十周年記念論文集』阿波学会
上坂悟1983：「板碑にみられる仏具」『板碑の総合的研究Ⅰ総論編』柏書房
岡山真知子2008：第３回合同研究会発表資料『板碑にみる民衆の祈り』
沖野舜二1957：『阿波板碑の研究－序説－』小宮山書店小沢国平1967：『板碑入門』隣人社
神山町教育委員会1983：『神山の板碑』神山町教育委員会
神山町教育委員会1985：『神山の板碑（第二集)』神山町教育委員会
郷土班1971：「麻植パイロット開拓地区埋蔵文化財の調査」『郷土研究発表会紀要第17号（総合学術調査報告　麻植　パイロット開拓地区)』
郷土班1983：「鷲敷町の石造文化」『郷土研究発表会紀要第29号（総合学術調査報告　鷲敷町)』
郷土班1987：「石造文化財・文書類調査」『郷土研究発表会紀要第33号（総合学術調査報告　海部町)』
考古班1997：「日和佐町の板碑」『阿波学会紀要第43号（総合学術調査報告　日和佐町)』
考古班2002：「佐那河内村の板碑」『阿波学会紀要第50号（総合学術調査報告　佐那河内村)』
考古班2004：「美郷村の板碑」『阿波学会紀要第50号（総合学術調査報告　美郷村)』
考古班2006：「藍住町の板碑」『阿波学会紀要第50号（総合学術調査報告　藍住町)』
考古班2009：「木屋平地区の板碑」『阿波学会紀要第54号（総合学術調査報告　美馬市「旧木屋平」)』
考古班2010：「阿波市の板碑」『阿波学会紀要第56号（総合学術調査報告　阿波市「阿波町・吉野町」)』
考古班2011：「つるぎ町の板碑」『阿波学会紀要第57号（総合学術調査報告　つるぎ町一宇)』
鈴木道也1977：『板碑の美』西北出版
田岡香逸1973：「板碑」『三加茂町史』
徳島県教育委員会1977：『石造文化財－徳島県文化財基礎調査報告書第１集－』
徳島市教育委員会1989：『徳島市の石造文化財』本文編・資料編（一)・資料編（二)
鳴門市1976：『鳴門市史　上巻』鳴門市
服部清道1972：『板碑概説』角川書店
三加茂町1973：『三加茂町史』

“Itabi” the flattened schist stone-monuments in “ex-Mikamo Cho”, Tokushima, Japan
OKAYAMA Machiko, KOBAYASHI Katsumi, MIYAKE Yoshiaki, FUKUTA Osahiro, NISHIMOTO Saori,
Proceedings of Awagakkai, No.59(2013), pp.113－123